

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	井口喜源治の教育を学び合うことを通した、生涯学習振興に資する事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人井口喜源治記念館 安曇野市穂高4312
事業区分	(3)教育文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト / ハード / <u>ソフト・ハード</u> (該当項目に○印を記入)
総事業費	1,200,825 円 (うち支援金: 870,000円)

事業内容

1 講演会・演奏会

北米シアトルへ移民した研成義塾の70余名の卒業生の生き方については、多くの入館者・関係者が関心を寄せてきた。本事業まとめの年に当たり、北米移民についての研究者の講演により新しい視野を拓く機会とすることができた。

- (1) 期日・会場 10月24日(土)・碓山公園研成ホール
- (2) 講演会講師 能登路雅子(東京大学名誉教授)
- (3) 講演会テーマ 「アメリカ北西部の日系人：その歴史と現在」
- (4) 参加者、人数 教育関係者・「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・地域の人々、71名

2 演奏会

井口喜源治の研成義塾へ相馬黒光から寄贈されたオルガンの演奏とソプラノの歌唱を鑑賞し、音楽を通して教育の在り方に関心を持ち、一層研修を進めていくための意欲化を図ることができた。

- (1) 期日・会場 11月14日(土)・穂高交流学習センター「みらい」多目的ホール
- (2) 出演者 オルガニスト・杉本周介、ソプラノ歌手・原謡子
- (3) 参加者、人数 教育関係者・「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・地域の人々、77名

3 「井口喜源治先生に学ぶ会」年間3回

小中学校の教師等の教育関係者、地域の人々の参加により、喜源治の遺稿・記録などを読み合わせ、研究者の指導助言を得て、研成義塾の教育と喜源治の思想・人物像について学んだ。

- (1) 期日・会場 2年9月5日,12月19日,
3年2月13日 井口喜源治記念館、碓山公園研成ホール、等々力町公民館
- (2) 講師 武富 保(信州大学名誉教授)
- (3) 参加者・人数 「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・その他希望者 76名(延べ人数)



【講演会・演奏会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 「講演会」「演奏会」「学ぶ会」の内容の充実による生涯学習の振興
- ② 記念館の展示内容の充実による入館者の研修の促進

- 4 保存資料の複製品作成
 - ・「館内資料を貸し出してより多くの地域住民の研修の場を設ける」体制を整えた。(出前展覧会の出品準備を進め、可能な限り要請に対応できるようにした)
- 5 展示ケースの増設とテレビモニターの新設
 - ・本記念館所蔵の諸資料をより多く展示し、また講演会や演奏会等の事業の様子をビデオで紹介し、説明の充実により入場者の理解を図ることができた。
- 6 井口喜源治の教育についてインターネット・ウェブでの紹介
 - ・本事業を社会へ広くアピールすることにより、関心を持っていただき、生涯学習への活用を図ることを推進できた。

1. 自己評価【 B 】

【理由】

- ・コロナウイルス感染予防のため、予定した事業の実施には、参加者数の制限等様々な配慮が必要であった。しかし、「講演会」「演奏会」では、限定座席が満席の状況であり、内容に対して満足の声が多く聞かれた。
- ・展示ケースの増設とテレビモニターの新設により、館内施設が充実し、入館者の研修に有効であった。
- ・保存資料の複製品作成により、出前展示など、諸団体の要請に対する準備を整えることができた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 井口喜源治の教育実践と生涯の歩みとを振り返って学ぶ機会の「講演会」では、地域住民の関心が高い「北米移民について」テーマに取り上げ、その道の造詣の深い能登路雅子東大名誉教授を講師にお招きし、71名で聴講した。研成義塾出身者の北米での生活の様子など具体的なことについて研修を深め、地域の人々の生涯学習の振興を図ることができた。
- 2 「演奏会」では、当館にかつて寄贈された国内で2番目に古いといわれる「相馬黒光のオルガン」をプロ奏者が演奏し、またソプラノの歌唱が加わり、研成義塾当時の曲目等を77名の参加者が楽しく鑑賞できる機会を持つことができた。
- 3 コロナウイルス感染防止のため、1か月半の休館、「安曇野まちなかカレッジ」等の対外的な事業の中止というやむを得ない状況であったが、可能な事業は予定通り進めることができた。そのため、館内の施設充実により入館者の研修の質の向上が図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること

以下のように各具体事業への参加者の増加を図ることで、本事業の効果の継続を図りたい。

- 1 「講演会」は「井口喜源治と研成義塾」に関連した内容について取り上げ、その道の造詣の深い研究者を講師にお招きする。
- 2 保存資料の複製品を額に収め、「出前展覧会」などの機会をとらえ、より多くの地域住民の「井口喜源治の教育を学び合う」研修の場を設けたい。
- 3 本館での研修が充実するよう、展示ケースの増設・ビデオシステムの更新を計画的に進めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)